

# 新しい形態の教室群により能動的学習を促す

「理想の教育棟」構想を実現

東京大学 21 Komaba Center for Educational Excellence (21 KOMCEE)



駒場キャンパスに新しく生まれた通称「理想の教育棟」。キーワードは「アクティブラーニング」、「滞在型の学びのオアシス」、「先進的な環境教育」

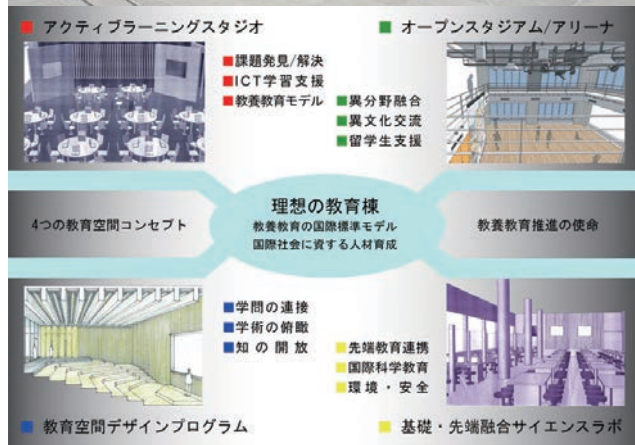
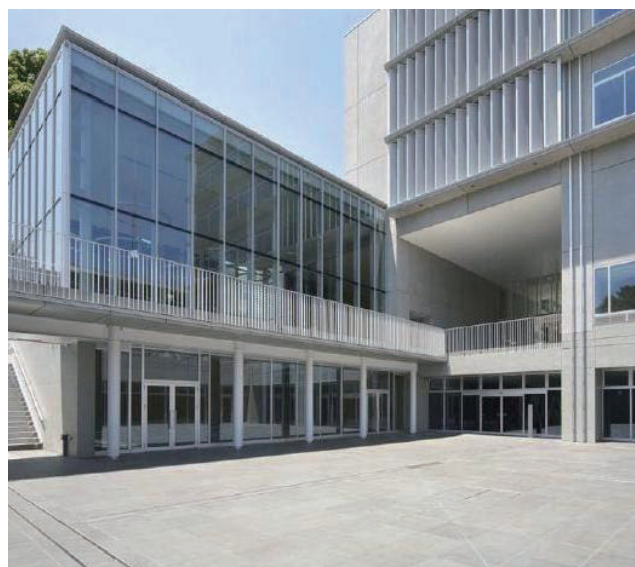
の21 KOMCEE (コムシー。Komaba Center for Educational Excellence) は、その名称のとおり、東京大学の教養教育を担う駒場キャンパスの先導的教育施設である。従来の講義棟にはない進化した教育環境を提供し、また自習やコミュニケーションに活用できる多目的な空間を充実させることにより、学修支援の高度化を目指している。

東京大学は、これまで一貫して教養教育に力をそそいできており、駒場Iキャンパスに置かれた教養学部、総合文化研究科などによって、全学の前期課程教育と総合文化領域における高度な教育研究が行われているが、2005年度に、教養教育のさらなる向上を目指して「理想の教育棟」構想が生まれ、その後、多くの関係者の協力のもとにこの構想は徐々に形を整えられた。2009年度には、寄附による東京大学基金などの支援を受けて21 KOMCEE I 期棟の建設計画が具体化し、2011年5月に地上5階、地下1階建て4,500㎡が完成した。

完成後も、学内に設置された教養教育高度化機構などにより、この施設を活用したプログラムの開発や学内外への情報発信が続けられている。建物の特徴は以下のとおりである。

## ■ICTを活用したアクティブラーニング

自ら考えて判断し、仲間や教員と議論しながら互いに切磋琢磨する。そうした主体的な学び・能動的な学びを実現するため、21 KOMCEEに8つ設けられた「スタジオ」と呼ばれる教室は、



理想の教育棟検討WGによる基本構想概念図



スタジオ（大）は50人収容



勾玉形の机を組み合わせグループで討議



電子黒板を使い学習成果を発表

東京大学がすすめるICTを活用したアクティブラーニングに対応した設計となっている。収容人数は30～50名で、それぞれに可動式の机・イス、壁一面のホワイトボード、プロジェクター、ディスカッションボードが設置されている。また、身体運動・表現を取り入れた授業のために床をフローリングにしたスタジオ、企業からの寄附により60台のタブレットノートPCを設置したスタジオなど特徴を持たせた室を用意している。

200人収容のレクチャーホールが一つ設けられているが、講師と聴衆の距離を短くするなど、相互にフィードバックが働く工夫がなされている。

#### ■滞在型の学びのオアシス

21 KOMCEEには、各スタジオの周りに開放的なラウンジを設け、また、美しい照明を施したイベントホール（寄附者にちなんでMMホールと命名）、本格的なカフェテリアなど、教室を出ても快適に滞在できる空間を用意している。無線LAN環境も整備されており、そこで仲間と議論したり、教員に質問したり、自習したりすることができ、特に、キャンパスに自分の拠点がない1、2年生にとって、有効なアカデミックスペースとなっている。

#### ■ゼロエネルギービルによる先進的な環境教育

東京大学に入学した1、2年生全員が勉学に励む駒場キャンパスにある「理想の教育棟」をゼロエネルギービル化し、それを教材としながら、サスティナビリティや環境問題について学ぶことの意義を考慮し、以下のような環境配慮システムを導入している。

- ・ダブルスキン+省エネウインドウシステム
- ・地中熱・地下水循環型冷暖房システム
- ・放射冷暖房システム
- ・パッシブソーラーシステム（躯体蓄熱）
- ・太陽光発電システム
- ・自然光活用LED調光システム
- ・雨水利用システム
- ・AIネットワークによる建物・空調・照明統合マネジメントシス

#### テム「学ぶクン」

なお、これらのシステムはNEDOによる「次世代省エネルギー等建築システム実証事業」の対象施設として整備された。



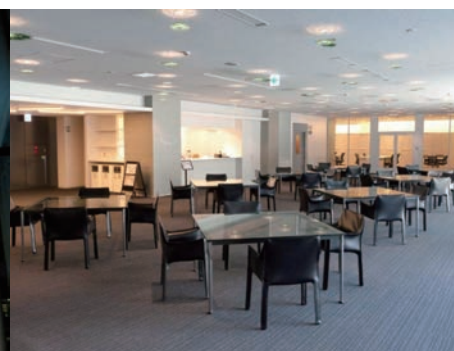
右上：可変ルーバー  
右下：MMホール  
左上：オープンスタジアム  
左下：レクチャーホール

(写真提供)

- ・ART-TECH（有）アート・テック 井上光伸
- ・コクヨ株式会社/コクヨファニチャー株式会社
- ・東京大学大学院総合文化研究科 刀根直樹
- ・東京大学施設部



MMホールの照明



カフェテリア KOMOREBI



オープンスペースアリーナ